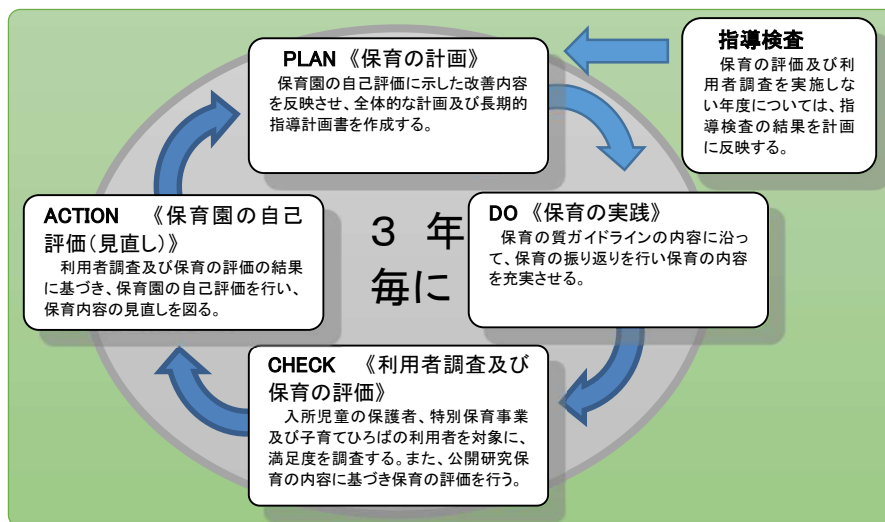


令和7年度 八王子市立保育園（公設公営園） 保育所の自己評価

国は、平成29年（2017年）3月31日に公示された新保育所保育指針の中で、「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。」と明記しています。また、八王子市は、平成30年12月に、公立保育園が八王子市の保育における中核的な役割を果たしていくため、「八王子市（公設公営園）保育の質ガイドライン」を策定しました。

保育園が、保育施設としてその運営や保育内容等について保護者の皆様や地域の皆様に説明することは、保育所の重要な責務です。このことを踏まえ、公立保育園では保育の質の向上を図るために、利用者調査、公開研究保育とともに保育所の自己評価を実施しました。

今後は、評価の結果を踏まえ当該保育所において保育内容等の改善を図るとともに、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより強固なものとなるようにしてまいります。



評価責任者

八王子市子ども家庭部子どもの教育・保育推進課
市立元八王子保育園 施設長 小笠和代

令和7年度（2025年度） 保育所の自己評価 評価結果

評価項目	評価結果	評価結果・具体的事例および改善方法
<p>保育の方針 1</p> <p>子どもが人格を形成していく上で、自己肯定感を持つようにすることが大切である。職員は、子どものあるがままを受け止め、自分の意思を自由に表現できるように保育の中で援助していく。</p>	94%	<p>日々の保育の中で、子どもの気持ちを受け止める声かけや、挑戦を認める関わりに取り組んできている。今後も一人ひとりの子どもの成長や個性を尊重し、安心して自己発揮できるような環境づくりに努めていきたい。</p>
<p>保育の方針 2</p> <p>子どもが保育園生活をおくる上で必要なルールを知らせるとともに、人にはそれぞれ違いがあり、その違いを認め合うことを伝えていく。</p>	86%	<p>日々の保育の中で、子ども同士が互いの違いを受け入れられるような関わりに取り組んできている。また、皆で気持ちよく生活するためのルールについて、理解しやすいよう伝えている。今後は子ども自身が考え、主体的に生活や遊びを紡いでいけるような援助を強化していきたい。</p>
<p>保育の方針 3</p> <p>人の成長には豊かな経験が必要であり、特に乳幼児期においてはそれが実体験でなくてはならない。人的・物的な環境を整え、自然に集団となつてあそぶ中で様々な体験ができるようにしていく。</p>	89%	<p>日々の保育の中で、子どもが身近な人や物と関わり、多様な経験ができるよう活動時間の確保に取り組んできている。今後はより一層、豊かな体験が得られるよう素材や空間の工夫、地域資源の活用など、多様な実体験に繋がる環境整備を進めていきたい。</p>
<p>食育</p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみながら自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。</p>	92%	<p>生きる力を育むうえで欠かせない「食」の大切さを伝えるため、食材の下処理や野菜作り、調理保育に取り組んできている。今後は子ども自身が主体的に食に係る姿を大切にしながら活動の幅を広げたり、子どもの意見を取り入れたりすることで食育の充実を図っていきたい。</p>
<p>子育て支援</p> <p>子どもの健やかな育ちを保障するため、家庭との連携を深めるとともに、在園児保護者及び在宅の子育て家庭における養育力が向上するよう援助していく。</p>	89%	<p>保護者の皆様より寄せられる多様なご意見を真摯に受け止め、可能な限り、改善や工夫につながるよう努めてきている。今後も子育てに励む保護者を応援できる組織であり続けるため、保護者との対話を大切にし、意見を反映した取り組みを継続していきたい。</p>
<p>職員の資質向上</p> <p>保育者に求められる専門性や倫理観を高めるため、保育の質の確保に向けた取り組みを組織的に行う。</p>	85%	<p>「子どもの主体的な遊びを通じた学び」を実践するため、東京都が推進するすくわく事業に参加し、保育内容の見直しを進めてきている。今後も研修の充実や実践の共有、振り返りの機会を増やすことにより、組織としての保育力を高めていきたい。</p>
<p>安全管理と災害への備え</p> <p>日々、子どもたちの健康に留意するとともに、災害や事故に対する準備と心構えを持ち、それに係る訓練などを欠かさずに、子どもの安心・安全を守る。</p>	91%	<p>全ての職員が危険予測や事故防止の視点をもって保育にあたるよう努めてきている。同時に子どもに対する安全教育を日常的に実施してきている。今後も大切な子どもの命を守ることができる組織であるよう研修や環境整備を強化するとともに、職員間での情報共有に努めていきたい。</p>